



Cisco Jabber アプリケーションおよび Jabber ソフトフォンの VDI 用の展開

- [アクセサリ マネージャ \(1 ページ\)](#)
- [Cisco Jabber クライアントのダウンロード \(2 ページ\)](#)
- [Windows 版 Cisco Jabber のインストール \(3 ページ\)](#)
- [Mac 版 Cisco Jabber のインストール \(36 ページ\)](#)
- [Cisco Jabber モバイルクライアントのインストール \(42 ページ\)](#)
- [VDI 版 Jabber Softphone のインストール \(52 ページ\)](#)

アクセサリ マネージャ

アクセサリ マネージャ

Jabber デスクトップクライアントは、アクセサリ マネージャを使用してヘッドセットなどのアクセサリとの対話を可能にします。アクセサリ マネージャは、アクセサリデバイスベンダーにユニファイドコミュニケーション制御 API を提供するコンポーネントです。

一部の Cisco ヘッドセットおよびその他のサードパーティ製デバイスは、この API を使い、デバイスで消音、通話の応答、通話の終了などを行います。サードパーティベンダーはアプリケーションによってロードされるプラグインを作成します。標準ヘッドセットはAPIを使用してスピーカー、マイクの接続をサポートします。

特定のデバイスのみがコール制御のアクセサリ マネージャと対話します。詳細はデバイスベンダーにお問い合わせください。アクセサリ マネージャはデスクトップ電話機をサポートしていません。

アクセサリ マネージャの機能はデフォルトで有効になっており、`EnableAccessoriesManager` パラメータを使用して設定されます。`BlockAccessoriesManager` パラメータを使用して、サードパーティのベンダーが提供する特定のアクセサリ マネージャ プラグインを無効にできます。



- (注) jabber-config.xml で EnableAccessoriesManager を false に設定すると、一部のヘッドセットの通話制御ボタンが動作しません。

クライアント インストーラにはベンダーが提供するサードパーティのプラグインが含まれます。これらは /Library/Cisco/Jabber/Accessories/ フォルダにインストールされます。

サポートされるサードパーティのベンダー:

- Logitech
- Sennheiser
- Jabra
- Plantronics

Cisco Jabber クライアントのダウンロード

必要に応じて、そのクライアントに対応したオペレーティングシステムから署名ツールを使用して、Jabber インストーラまたは Cisco Dynamic Libraries にユーザ独自のカスタマー署名を追加することができます。



- (注) Mac 版 Cisco Jabber の場合、インストーラには製品のインストーラ ファイルが含まれています。端末ツールを使用してインストーラから pkg ファイルを解凍し、インストーラに追加する前に pkg ファイルに署名します。

手順

適切なソースからクライアントをダウンロードします。

- [Cisco Software Center](#) にアクセスして Mac 版 Cisco Jabber および Windows 版 Cisco Jabber クライアントをダウンロードします。
- Android 版 Cisco Jabber の場合は、Google Play からアプリケーションをダウンロードします。
- iPhone および iPad 版 Cisco Jabber の場合は、App Store からアプリケーションをダウンロードします。

Windows 版 Cisco Jabber のインストール

Windows 版 Cisco Jabber は、次のように使用可能な MSI インストール パッケージを提供します。

インストール オプション	説明
コマンドラインの使用 (3 ページ)	コマンドラインウィンドウで引数を指定して、インストール プロパティを設定できます。 複数のインスタンスをインストールする場合は、このオプションを選択します。
MSI の手動による実行 (25 ページ)	クライアントの起動時に、MSI をクライアントワークステーションのファイルシステムで手動で実行し、接続プロパティを指定します。 テストまたは評価用に単一インスタンスをインストールする場合は、このオプションを選択します。
カスタム インストーラの作成 (26 ページ)	デフォルトのインストールパッケージを開き、必要なインストール プロパティを指定し、カスタム インストール パッケージを保存します。 同じインストール プロパティを持つインストールパッケージを配布する場合は、このオプションを選択します。
グループ ポリシーを使用した導入 (30 ページ)	同じドメインの複数のコンピュータにクライアントをインストールします。

始める前に

ローカル管理者権限でログインする必要があります。

コマンドラインの使用

コマンドライン ウィンドウにインストール引数を指定します。

手順

ステップ 1 コマンドライン ウィンドウを開きます。

ステップ 2 次のコマンドを入力します。

```
msiexec.exe /i CiscoJabberSetup.msi
```

ステップ 3 パラメータ = 値のペアとしてコマンドライン引数を指定します。

```
msiexec.exe /i CiscoJabberSetup.msi argument=value
```

ステップ 4 Windows 版 Cisco Jabber をインストールするコマンドを実行します。

インストールコマンドの例

Windows 版 Cisco Jabber をインストールするためのコマンド例を確認してください。

Cisco Unified Communications Manager リリース 9.x

```
msiexec.exe /i CiscoJabberSetup.msi /quiet CLEAR=1
```

ここで、

CLEAR=1 — 既存のブートストラップ ファイルを削除します。

/quiet : サイレント インストールを指定します。

関連トピック

[コマンドライン引数](#) (4 ページ)

[言語の LCID](#) (23 ページ)

コマンドライン引数

Windows 版 Cisco Jabber をインストールする際に指定可能なコマンドライン引数を確認してください。

関連トピック

[インストール コマンドの例](#) (4 ページ)

[言語の LCID](#) (23 ページ)

オーバーライドの引数

次の表では、これまでのインストールから既存のブートストラップ ファイルを上書きするために指定する必要があるパラメータを説明します。

引数	値	説明
CLEAR	1	クライアントが前のインストールから既存のブートストラップ ファイルを上書きするかどうかを指定します。 クライアントは、インストール中に設定した引数と値をブートストラップ ファイルに保存します。次に、クライアントは起動時にブートストラップ ファイルから設定を読み込みます。

CLEAR を指定した場合、インストール中に次が実行されます。

1. クライアントが既存のブートストラップ ファイルをすべて削除する。
2. クライアントが新しいブートストラップ ファイルを作成する。

CLEAR を指定しない場合、クライアントはインストール中に既存のブートストラップ ファイルがあるかどうかをチェックします。

- ブートストラップファイルが存在しない場合は、クライアントはインストール中にブートストラップ ファイルを作成します。
- ブートストラップファイルが存在する場合は、クライアントはブートストラップ ファイルを上書きせず、既存の設定を保持します。



(注) Windows 版 Cisco Jabber を再インストールする場合は、次の点に留意する必要があります。

- クライアントは、既存のブートストラップ ファイルからの設定を保存しません。CLEAR を指定した場合は、他のすべてのインストール引数も適切に指定する必要があります。
- クライアントは、既存のブートストラップファイルにインストール引数を保存しません。インストール引数の値を変更する場合、または追加のインストール引数を指定する場合は、既存の設定を上書きするために CLEAR を指定する必要があります。

既存のブートストラップファイルを上書きするには、コマンドラインに CLEAR を次のように指定します。

```
msiexec.exe /i CiscoJabberSetup.msi CLEAR=1
```

モードタイプの引数

次の表では、製品モードを指定するコマンドライン引数を説明します。

引数	値	説明
PRODUCT_MODE	Phone_Mode	<p>クライアントの製品モードを指定します。次の値を設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Phone_Mode : Cisco Unified Communications Manager がオーセンティケータです。 <p>基本機能としてオーディオデバイスを持つユーザをプロビジョニングする場合は、この値を選択します。</p>

製品モードを設定する場合

電話モード展開では、Cisco Unified Communications Manager がオーセンティケータです。クライアントがオーセンティケータを取得すると、製品モードが電話機モードであることが決定されます。ただし、クライアントは最初の起動時にデフォルトの製品モードで常に開始するため、ユーザはログイン後に電話モードにして、クライアントを再起動する必要があります。



- (注) Cisco Unified Communications Manager リリース 9.x 以降：インストール中に PRODUCT_MODE を設定しないでください。クライアントはサービスプロファイルからオーセンティケータを取得します。ユーザがログインすると、クライアントは、電話モードにして再起動するよう要請します。

製品モードの変更

製品モードを変更するには、クライアントのオーセンティケータを変更する必要があります。クライアントは、オーセンティケータからの製品モードを決定します。

インストール後の製品モードの変更方法は、展開に応じて異なります。



- (注) すべての展開において、ユーザは [詳細設定 (Advanced settings)] ウィンドウで手動でオーセンティケータを設定できます。

この場合、ユーザには、[詳細設定 (Advanced settings)] ウィンドウでオーセンティケータを変更することによって、製品モードを変更するように指示します。クライアントをアンインストールし、その後再インストールしても、手動設定を上書きすることはできません。

Cisco Unified Communications Manager バージョン 9.x 以降を使用した製品モードの変更

Cisco Unified Communications Manager バージョン 9.x 以降を使用して製品モードを変更するには、サービス プロファイルのオーセンティケータを変更します。

手順

ステップ 1 適切なユーザのサービス プロファイルでオーセンティケータを変更します。

[**デフォルト モード (Default Mode)**] > [**電話モード (Phone Mode)**] を変更します。

IM and Presence を持つユーザのプロビジョニングを行わないでください。

サービス プロファイルに IM and Presence サービスの設定が含まれていない場合は、Cisco Unified Communications Manager がオーセンティケータです。

[**電話モード (Phone Mode)**] > [**デフォルト モード (Default Mode)**] を変更します。

IM and Presence を持つユーザのプロビジョニングを行います。

IM and Presence プロファイルの [製品タイプ (Product Type)] フィールドの値を次に対して設定した場合、

- [Unified CM (IM and Presence)] : オーセンティケータは Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service です。
- Webex Webex (IM and Presence) オーセンティケータは、Cisco Webex Messenger サービスです。

ステップ 2 ユーザにログアウトをしてから再度ログインするように指示します。

ユーザがクライアントにログインすると、サービス プロファイルの変更を取得し、オーセンティケーターにユーザをログインさせます。クライアントは製品モードを決定すると、クライアントを再起動するようユーザに指示します。

ユーザがクライアントを再起動した後、製品モードの変更が完了します。

認証引数

次の表は、認証ソースの指定をユーザが設定できるコマンドライン引数を説明しています。

引数	値	説明
AUTHENTICATOR	CUP CUCM	<p>クライアントに認証ソースを指定します。この値は、サービス ディスカバリに失敗した場合には使用されます。値として次のいずれかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CUP : Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service。デフォルトの製品モードでのオンプレミスの展開。デフォルト製品モードはフル UC または IM のみのいずれかです。 • CUCM : Cisco Unified Communications Manager。電話モードでのオンプレミスの展開。 <p>Cisco Unified Communications Manager バージョン 9.x 以降を使用したオンプレミス展開では、<code>_cisco-uds SRV</code> レコードを展開する必要があります。クライアントは、自動的にオーセンティケーターを決定することができます。</p>
CUP_ADDRESS	IP アドレス(IP address) ホストネーム (Hostname) FQDN	<p>Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service のアドレスを指定します。値として次のいずれかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ホスト名 (<i>hostname</i>) • IP アドレス (<i>123.45.254.1</i>) • FQDN (<i>hostname.domain.com</i>)

引数	値	説明
TFTP	IP アドレス(IP address) ホストネーム (Hostname) FQDN	<p>TFTP サーバのアドレスを指定します。値として次のいずれかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ホスト名 (<i>hostname</i>) • IP アドレス (<i>123.45.254.1</i>) • FQDN (<i>hostname.domain.com</i>) <p>Cisco Unified Communications Manager がオーセンティケータとして設定されている場合に、この引数を指定する必要があります。</p> <p>展開する場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電話モード：クライアント コンフィギュレーションをホスティングする TFTP サーバのアドレスを指定する必要があります。 • デフォルトモード：デバイス設定をホストする Cisco Unified Communications Manager TFTP サービスのアドレスを指定できます。
CTI	IP アドレス(IP address) ホストネーム (Hostname) FQDN	<p>CTI サーバのアドレスを設定します。</p> <p>この引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager をオーセンティケータとして設定する。 • ユーザは、デスクフォンデバイスを持ち、CTI サーバを必要とします。
CCMCIP	IP アドレス(IP address) ホストネーム (Hostname) FQDN	<p>CCMCIP サーバのアドレスを設定します。</p> <p>この引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager をオーセンティケータとして設定する。 • CCMCIP サーバのアドレスが TFTP サーバアドレスと同じではありません。 <p>クライアントは両方のアドレスが同じであれば、TFTP サーバアドレスで CCMCIP サーバを検索できます。</p>

引数	値	説明
SERVICES_DOMAIN	Domain	<p>サービス ディスカバリの DNS SRV レコードが存在するドメインの値を設定します。</p> <p>この情報のインストーラ設定または手動設定をクライアントで使用する場合、この引数はDNS SRV レコードが存在しないドメインに設定します。この引数が指定されない場合、ユーザはサービス ドメイン情報を指示されます。</p>
VOICE_SERVICES_DOMAIN	ドメイン	<p>この設定が指定された場合、クライアントはサービス ディスカバリとエッジ検出の目的で、VOICE_SERVICES_DOMAIN の値を使用して次の DNS レコードを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • _cisco-uds • _cuplogin • _collab-edge <p>この設定は任意です。指定しない場合、DNS は SERVICES_DOMAIN、ユーザによるメールアドレス入力、またはキャッシュされたユーザ設定から取得したサービス ドメインで照会されます。</p>
EXCLUDED_SERVICES	<p>次のうち1つ以上：</p> <ul style="list-style-type: none"> • Webex • CUCM 	<p>Jabber がサービス ディスカバリから除外するサービスを示します。たとえば、Webex でトライアルを行い、会社のドメインが Webex に登録されているとします。ただし、Jabber を Webex ではなく CUCM サーバーで認証する必要があります。この場合、次のように設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • EXCLUDED_SERVICES=WEBEX <p>使用できる値は CUCM です。Webex</p> <p>すべてのサービスを除外した場合、Jabber クライアントの設定に手動設定またはブートストラップ設定を使用する必要があります。</p>

引数	値	説明
UPN_DISCOVERY_ENABLED	true false	<p>クライアントがサービスを検出したときに Windows セッションのユーザプリンシパル名 (UPN) を使用してユーザのユーザ ID とドメインを取得するかどうかを定義できるようにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true (デフォルト) : UPN を使用して、サービス検出で使用されるユーザのユーザ ID とドメインが検索されます。UPN から検出されたユーザだけが、クライアントにログインできます。 • false : UPN はユーザのユーザ ID とドメインの検索に使用されません。ユーザは、サービスディスカバリ用のドメインを検索するためのクレデンシャルの入力を要求されます。 <p>インストール コマンドの例 : <code>msiexec.exe /i CiscoJabberSetup.msi /quiet UPN_DISCOVERY_ENABLED=false</code></p>

TFTP サーバアドレス

Windows 版 Cisco Jabber は、TFTP サーバから 2 つの異なるコンフィギュレーションファイルを取得します。

- 作成したクライアント設定ファイル。
- デバイスを使用してユーザをプロビジョニングしたときに Cisco Unified Communications Manager TFTP サービスに配置されるデバイス コンフィギュレーションファイル。

労力を最小限に抑えるには、Cisco Unified Communications Manager TFTP サービス上でクライアント コンフィギュレーション ファイルをホストする必要があります。すべての設定ファイルに対し TFTP サーバアドレスを 1 つのみ使用します。必要な場合にそのアドレスを指定できます。

ただし、別の TFTP サーバのクライアント設定を、デバイス設定が含まれるサーバでホストできます。この場合、2 つの異なる TFTP サーバアドレスがあります。1 つはデバイス設定をホストする TFTP サーバのアドレスであり、もう 1 つはクライアント設定ファイルをホストする TFTP サーバのアドレスです。

デフォルトの導入

この項では、プレゼンスサーバがある導入環境において、2 つの異なる TFTP サーバアドレスを処理する方法について説明します。

以下を実行する必要があります。

1. プレゼンス サーバにあるクライアント設定をホストする TFTP サーバのアドレスを指定します。
2. インストール中に、TFTP 引数を使用して Cisco Unified Communications Manager TFTP サービスのアドレスを指定します。

クライアントは、初回起動時に以下を実行します。

1. ブートストラップ ファイルから Cisco Unified Communications Manager TFTP サービスのアドレスを取得します。
2. Cisco Unified Communications Manager TFTP サービスからデバイス設定を取得します。
3. プレゼンス サーバに接続します。
4. プレゼンス サーバからクライアント設定をホストする TFTP サービスのアドレスを取得します。
5. TFTP サーバからクライアント設定を取得します。

電話モード展開

このセクションでは、電話モード展開で2つの異なる TFTP サーバアドレスを処理する方法について説明します。

以下を実行する必要があります。

1. インストール時に、TFTP 引数を使用して、クライアント設定をホストする TFTP サーバのアドレスを指定します。
2. クライアント コンフィギュレーション ファイルで `TftpServer1` パラメータを使用して、デバイス設定をホストする TFTP サーバのアドレスを指定します。
3. TFTP サーバにあるクライアント設定ファイルをホストします。

クライアントが初めて起動するときには、次の処理が実行されます。

1. ブートストラップ ファイルから TFTP サーバのアドレスを取得します。
2. TFTP サーバからクライアント設定を取得します。
3. クライアント設定から Cisco Unified Communications Manager TFTP サービスのアドレスを取得します。
4. Cisco Unified Communications Manager TFTP サービスからデバイス設定を取得します。

共通のインストール引数

次の表は、一部の一般的なコマンドライン引数を説明するものです:

引数	値	説明
AUTOMATIC_SIGN_IN	true false	<p>ユーザがクライアントをインストールしたときに [Cisco Jabber の起動時にサインイン (Sign me in when Cisco Jabber starts)] チェックボックスがオンになるかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true : ユーザがクライアントをインストールしたときに [Cisco Jabber の起動時にサインイン (Sign me in when Cisco Jabber starts)] チェックボックスがオンになります。 • false (デフォルト) : ユーザがクライアントをインストールしたときに [Cisco Jabber の起動時にサインイン (Sign me in when Cisco Jabber starts)] チェックボックスがオフになります。
CC_MODE	true false	<p>Jabber が共通基準モードで実行されているかどうかを指定します。</p> <p>デフォルト値は false です。</p>

引数	値	説明
CLICK2X	DISABLE Click2Call	<p>Cisco Jabber で click-to-x 機能を無効にします。</p> <p>この引数をインストール中に指定すると、クライアントは click-to-x 機能のハンドラとして、オペレーティングシステムで登録しません。この引数により、クライアントはインストール中の Microsoft Windows レジストリへの書き込みができなくなります。</p> <p>クライアントを再インストールし、インストール後にクライアントで click-to-x 機能を有効にするには、この引数を省略します。</p> <p>(注) Windows API を使用して、jabber for Windows および Skype for Business を競合させることができます。この問題を潜在的に緩和するために、CLICK2X = DISABLE で Jabber をインストールすることができます。</p> <p>ブラウザの Click2Call 機能: 新しく追加された Click2Call パラメータを使用して、Click2X パラメータを設定できるようになりました。これにより、ブラウザの Click to Call 機能だけが有効になり、Click2X 機能は無効になります。</p>
DIAGNOSTICSTOOLENABLED	true false	<p>Windows 版 Cisco Jabber のユーザに対して Cisco Jabber 診断ツールが利用可能かどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true (デフォルト) : ユーザは、Ctrl キーと Shift キーを押した状態で D キーを入力して、Cisco Jabber 診断ツールを表示できます。 • false : ユーザは Cisco Jabber 診断ツールを利用できません。

引数	値	説明
ENABLE_DPI_AWARE	true false	<p>DPI 対応を有効にします。DPI 対応により、さまざまな画面サイズに合わせて Cisco Jabber がテキストとイメージの表示を自動的に調整することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true (デフォルト) : <ul style="list-style-type: none"> • Windows 8.1 および Windows 10 では、Cisco Jabber は各モニタのさまざまな DPI 設定に合わせて調整します。 • Windows 7 および Windows 8 では、Cisco Jabber はシステムの DPI 設定に応じて表示します。 • false : DPI 対応は有効になりません。 <p>DPI 対応はデフォルトで有効になっています。DPI 対応を無効にするには、 <code>msiexec.exe /i CiscoJabberSetup.msi CLEAR=1 ENABLE_DPI_AWARE=false</code> コマンドを使用します。</p> <p>(注) コマンドラインで Cisco Jabber をインストールする場合は、必ず CLEAR=1 の引数を記述します。コマンドラインから Cisco Jabber をインストールしない場合は、jabber-bootstrap.properties ファイルを手動で削除する必要があります。</p>

引数	値	説明
ENABLE_PRT	true false	<ul style="list-style-type: none"> • true (デフォルト) : クライアントの [ヘルプ (Help)] メニューで [問題の報告 (Report a problem)] メニュー項目が有効になります。 • false : クライアントの [ヘルプ (Help)] メニューから、Jabber メニュー項目の [問題の報告 (Report a problem)] オプションが削除されます。 <p>このパラメータを false に設定しても、ユーザは [スタートメニュー (Start Menu)] > [Cisco Jabber] ディレクトリ、または Program Files ディレクトリを使用して、問題レポートツールを手動で起動できます。ユーザが手動で PRT を作成し、このパラメータ値が false に設定されている場合、PRT から作成された zip ファイルにはコンテンツがありません。</p>
ENABLE_PRT_ENCRYPTION	true false	<p>問題レポートの暗号化を有効にします。この引数は PRT_CERTIFICATE_NAME 引数と共に設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true : Jabber クライアントから送信された PRT ファイルが暗号化されます。 • false (デフォルト) : Jabber クライアントから送信された PRT ファイルは暗号化されません。 <p>PRT の暗号化には、Cisco Jabber 問題レポートの暗号化と復号化のための公開/秘密キー ペアが必要です。</p>

引数	値	説明
FIPS_MODE	true false	<p>Cisco Jabber が FIPS モードであるかどうかを指定します。</p> <p>Cisco Jabber は、FIPS 対応ではないオペレーティングシステムでも FIPS モードにすることができます。Windows API 以外による接続のみ FIPS モードになります。</p> <p>この設定を含めない場合、Cisco Jabber ではオペレーティングシステムから FIPS モードが判定されます。</p>
FORGOT_PASSWORD_URL	URL	<p>ユーザがパスワードをなくしたり忘れていたりした場合にパスワードをリセットできる URL を指定します。</p> <p>この引数はオプションですが、指定することをお勧めします。</p>
FORWARD_VOICEMAIL	true false	<p>[ボイス メッセージ (Voice Messages)] タブでボイスメールの転送を有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true (デフォルト) : ユーザはボイスメールを連絡先へ転送できます。 • false : ボイスメールの転送は有効になりません。
INVALID_CERTIFICATE_BEHAVIOR	RejectAndNotify PromptPerSession	<p>無効な証明書に対するクライアントの動作を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • RejectAndNotify : 警告ダイアログが表示され、クライアントはロードされません。 • PromptPerSession : 警告ダイアログが表示され、ユーザは無効な証明書を受け入れるか、または拒否できます。 <p>FIPS モードの無効な証明書の場合、この引数は無視され、クライアントは警告メッセージを表示し、ロードされません。</p>

引数	値	説明
IP_Mode	IPv4 のみ IPv6 のみ 2つのスタック	<p>Jabber クライアントのネットワーク IP プロトコルを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IPv4 のみ : Jabber は IPv4 接続のみ 試行します。 • IPv6 のみ : Jabber は IPv6 接続のみ 試行します。 • 2つのスタック (デフォルト) : Jabber は IPv4 または IPv6 のいずれか と接続できます。 <p>(注) IPv6 のみのサポートは、デスクトップ デバイスの オンプレミス 展開でのみ使用できます。Jabber モバイル デバイスは、すべて 2つのスタック として構成しなければなりません。</p> <p>IPv6 の展開の詳細については、IPv6 Deployment Guide for Cisco Collaboration Systems Release を参照してください。</p> <p>Jabber で使用する ネットワーク IP プロトコルの決定には、いくつかの要因があります。詳細については、『<i>Planning Guide</i>』の「IPv6 Requirements」の項を参照してください。</p>

引数	値	説明
LANGUAGE	10 進数の LCID	<p>Windows 版 Cisco Jabber で使用される言語のロケール ID (LCID) を 10 進数で定義します。値は、サポートされる言語に対応する、10 進数の LCID でなくてはなりません。</p> <p>たとえば、次のいずれかを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1033 は英語です。 • 1036 はフランス語です。 <p>指定可能な言語の完全なリストについては、「言語の LCID」トピックを参照してください。</p> <p>この引数は省略可能です。</p> <p>値を指定しないと、Windows 版 Cisco Jabber が UseSystemLanguage パラメータの値をチェックします。</p> <p>UseSystemLanguage パラメータが true に設定されている場合は、オペレーティングシステムと同じ言語が使用されます。</p> <p>UseSystemLanguage パラメータが false または not defined に設定されている場合、クライアントは現在のユーザの地域言語をデフォルトとして使用します。</p> <p>地域言語は、[コントロール パネル (Control Panel)] > [地域および言語 (Region and Language)] > [日付、時刻、または数字形式の変更 (Change the date, time, or number format)] > [形式 (Formats)] タブ > [形式 (Format)] ドロップダウンで設定します。</p>

引数	値	説明
LOCATION_MODE	ENABLED DISABLED ENABLEDNOPROMPT	<p>ロケーション機能を有効にするかどうか、および新しいロケーションの検出時にユーザに通知するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ENABLED (デフォルト) : ロケーション機能がオンになります。新しいロケーションの検出時にユーザに通知されます。 • DISABLED : ロケーション機能がオフになります。新しいロケーションの検出時にユーザに通知されません。 • ENABLEDNOPROMPT : ロケーション機能がオンになります。新しいロケーションの検出時にユーザに通知されません。
LOG_DIRECTORY	ローカル システムの絶対パス	<p>クライアントがログファイルを書き込むディレクトリを定義します。</p> <p>次の例のように、引用符記号を使用して、パスのスペース文字をエスケープします。</p> <p>"C:\my_directory\Log Directory"</p> <p>指定するパスに、Windows で無効な文字を含めることはできません。</p> <p>デフォルト 値: %USER_PROFILE%\AppData\Local\Cisco\Unified Communications\Jabber\CSF\Logs</p>

引数	値	説明
LOGIN_RESOURCE	WBX MUT	<p>複数のクライアント インスタンスへのユーザ サインインを制御します。</p> <p>デフォルトで、ユーザは同時に Cisco Jabber の複数インスタンスにサインインできます。デフォルトの動作を変更するには、次のいずれかの値を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • WBX : ユーザは、一度に Windows 版 Cisco Jabber の 1 つのインスタンスにしかサインインできません。 <p>Windows 版 Cisco Jabber は、ユーザの JID に wbxconnect サフィックスを付加します。ユーザは、wbxconnect サフィックスを使用する他の Cisco Jabber クライアントにサインインできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • MUT : ユーザは、一度に Windows 版 Cisco Jabber の 1 つのインスタンスにしかサインインできませんが、同時に他の Cisco Jabber クライアントにサインインできます。 <p>Windows 版 Cisco Jabber の各インスタンスがユーザの JID に一意のサフィックスを付加します。</p>
PRT_CERTIFICATE_NAME	証明書の名前	<p>[エンタープライズ信頼または信頼できるルート認証局の証明書ストア (Enterprise Trust or Trusted Root Certificate Authorities certificate store)] に公開キーと共に証明書の名前を指定します。証明書の公開キーは、Jabber 問題レポートの暗号化に使用されます。この引数は ENABLE_PRT_ENCRYPTION 引数と共に設定する必要があります。</p>

引数	値	説明
RESET_JABBER	1	<p>ユーザのローカルプロファイルデータと移動プロファイルデータをリセットします。</p> <p>これらのフォルダーは削除されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • %appdata%\Cisco\Unified Communications\Jabber • %localappdata%\Cisco\Unified Communications\Jabber
SSO_EMAIL_PROMPT	オン オフ	<p>ユーザのホームクラスタを決定するために、ユーザに対して電子メールプロンプトを表示するかどうかを指定します。</p> <p>電子メールプロンプトが <code>ServicesDomainSsoEmailPrompt</code> によって定義されている動作をするためのインストーラ要件は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SSO_EMAIL_PROMPT=ON • UPN_DISCOVERY_ENABLED=False • VOICE_SERVICES_DOMAIN=<domain_name> • SERVICES_DOMAIN=<domain_name> <p>例 : <code>msiexec.exe /i CiscoJabberSetup.msi SSO_EMAIL_PROMPT=ON UPN_DISCOVERY_ENABLED=False VOICE_SERVICES_DOMAIN=example.cisco.com SERVICES_DOMAIN=example.cisco.com CLEAR=1</code></p>

引数	値	説明
Telemetry_Enabled	true false	<p>分析データを収集するかどうかを指定します。デフォルト値は true です。</p> <p>ユーザエクスペリエンスと製品パフォーマンスを向上させるために、Cisco Jabber は、個人識別が不可能な利用状況とパフォーマンスに関するデータを収集してシスコに送信する場合があります。収集されたデータは、シスコによって、Jabber クライアントがどのように使用され、どのように役立っているかに関する傾向を把握するために使用されます。</p> <p>Cisco Jabber が収集する分析データと、収集しない分析データの詳細については、https://www.cisco.com/web/siteassets/legal/privacy_02Jun10.html の「Cisco Jabber Supplement to Cisco's On-Line Privacy Policy」で確認できます。</p>
TFTP_FILE_NAME	ファイル名	<p>グループ設定ファイルの一意の名前を指定します。</p> <p>値として、未修飾か完全修飾のファイル名を指定できます。この引数の値として指定するファイル名は、TFTP サーバの他の設定ファイルよりも優先されます。</p> <p>この引数は省略可能です。</p> <p>メモ Cisco Unified Communications Manager の CSF デバイス設定の [シスコサポートフィールド (Cisco Support Field)] で、グループ コンフィギュレーション ファイルを指定できます。</p>

引数	値	説明
UXModel	modern classic	<p>デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用</p> <p>Jabber デフォルトでは、すべての導入で最新の設計になっています。ただし、オンプレミスの展開でも古典的な設計がサポートされています。Jabber チームのメッセージングモードでは、最新の設計のみがサポートされています。</p> <p>オンプレミスの展開で古典的な設計を開始する場合は、uxmodel パラメータを使用します。使用できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • modern (デフォルト): Jabber は最新のデザインで開始されます。 • クラシック: Jabber は従来のデザインで開始されます。 <p>各ユーザは Jabber で個人設定をすることができ、これはこのパラメータよりも優先されます。</p>

言語の LCID

次の表に、Cisco Jabber クライアントがサポートするロケール ID (LCID) または言語 ID (LangID) を示します。

サポートされる言語	Windows 版 Cisco Jabber	Mac 版 Cisco Jabber	Android 版 Cisco Jabber、iPhone および iPad 版 Cisco Jabber	LCID/LangID
アラビア語 (サウジアラビア)	X		X	1025
ブルガリア語 (ブルガリア)	X	X		1026
カタロニア語 (スペイン)	X	X		1027
簡体字中国語 (中国)	X	X	X	2052

サポートされる言語	Windows 版 Cisco Jabber	Mac 版 Cisco Jabber	Android 版 Cisco Jabber、iPhone および iPad 版 Cisco Jabber	LCID/LangID
繁体字中国語 (台湾)	X	X	X	1028
クロアチア語 (クロアチア)	X	X	X	1050
チェコ語 (チェコ共和国)	X	X		1029
デンマーク語 (デンマーク)	X	X	X	1030
オランダ語 (オランダ)	X	X	X	1043
英語 (米国)	X	X	X	1033
フィンランド語 (フィンランド)	X	X		1035
フランス語 (フランス)	X	X	X	1036
ドイツ語 (ドイツ)	X	X	X	1031
ギリシャ語 (ギリシャ)	X	X		1032
ヘブライ語 (イスラエル)	X			1037
ハンガリー語 (ハンガリー)	X	X	X	1038
イタリア語 (イタリア)	X	X	X	1040
日本語 (日本)	X	X	X	1041
韓国語 (韓国)	X	X	X	1042
ノルウェー語 (ノルウェー)	X	X		2068

サポートされる言語	Windows 版 Cisco Jabber	Mac 版 Cisco Jabber	Android 版 Cisco Jabber、iPhone および iPad 版 Cisco Jabber	LCID/LangID
ポーランド語 (ポーランド)	X	X		1045
ポルトガル語 (ブラジル)	X	X	X	1046
ポルトガル語 (ポルトガル)	X	X		2070
ルーマニア語 (ルーマニア)	X	X	X	1048
ロシア語 (ロシア)	X	X	X	1049
セルビア語	X	X		1050
スロバキア語 (スロバキア)	X	X	X	1051
スロベニア語 (スロベニア)	X	X		1060
スペイン語 (スペイン (国際ショナル ソート))	X	X	X	3082
スウェーデン語 (スウェーデン)	X	X	X	5149
タイ語 (タイ)	X	X		1054
Turkish	X	X	X	1055

関連トピック

[インストール コマンドの例 \(4 ページ\)](#)

[コマンドライン引数 \(4 ページ\)](#)

MSI の手動による実行

インストール プログラムを手動で実行すれば、クライアントの単一のインスタンスをインストールして、[詳細設定 (Advanced settings)] ウィンドウで接続設定を指定できます。

手順

- ステップ 1** CiscoJabberSetup.msi を起動します。
 インストールプログラムにより、インストール プロセスのウィンドウが開きます。
- ステップ 2** 手順に従ってインストール プロセスを完了します。
- ステップ 3** Windows 版 Cisco Jabber を起動します。
- ステップ 4** [手動設定およびログイン (Manual setup and sign in)] を選択します。
 [詳細設定 (Advanced settings)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 5** 接続設定プロパティの値を指定します。
- ステップ 6** 保存を選択します。

カスタム インストーラの作成

カスタム インストーラを作成するデフォルトのインストール パッケージを変換できます。



- (注) カスタム インストーラは Microsoft Orca を使用して作成します。Microsoft Orca は Microsoft Windows SDK for Windows 7 と .NET Framework 4 の一部として入手できます。

[Microsoft の Web サイト](#)から、Microsoft Windows SDK for Windows 7 と .NET Framework 4 をダウンロードしてインストールします。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	デフォルト トランスフォーム ファイルの取得 (27 ページ)	Microsoft Orca でインストール パッケージを修正するためには、デフォルト トランスフォーム ファイルが必要です。
ステップ 2	カスタム トランスフォーム ファイルの作成 (27 ページ)	トランスフォームファイルは、インストーラに適用するインストール プロパティが含まれます。
ステップ 3	インストーラの変換 (28 ページ)	インストーラをカスタマイズするため、トランスフォーム ファイルを適用します。

デフォルト トランスフォーム ファイルの取得

Microsoft Orca でインストールパッケージを修正するためには、デフォルト トランスフォーム ファイルが必要です。

手順

- ステップ 1** [ソフトウェア ダウンロード ページ](#)から Cisco Jabber 管理パッケージをダウンロードします。
- ステップ 2** Cisco Jabber 管理パッケージからファイル システムに CiscoJabberProperties.msi をコピーします。

次のタスク

[カスタム トランスフォーム ファイルの作成 \(27 ページ\)](#)

カスタム トランスフォーム ファイルの作成

カスタム インストーラを作成するには、変換ファイルを使用します。トランスフォーム ファイルは、インストーラに適用するインストール プロパティが含まれます。

デフォルト トランスフォーム ファイルは、インストーラを変換するとプロパティの値を指定することができます。1つのカスタム インストーラを作成する場合、デフォルト トランスフォーム ファイルを使用する必要があります。

任意でカスタム トランスフォーム ファイルを作成できます。カスタム トランスフォーム ファイルでプロパティの値を指定し、インストーラに適用します。

異なるプロパティの値を持つ複数のカスタム インストーラを必要とする場合、カスタム トランスフォーム ファイルを作成します。たとえば、デフォルト言語をフランス語に設定する トランスフォーム ファイルと、デフォルト言語をスペイン語に設定するもう1つの トランスフォーム ファイルを作成できます。インストールパッケージに各 トランスフォーム ファイルを個別に適用できます。2つの インストーラを作成したことで、各言語に1つの インストーラが作成されます。

始める前に

[デフォルト トランスフォーム ファイルの取得 \(27 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1** Microsoft Orca を起動します。
- ステップ 2** CiscoJabberSetup.msi を開いてから、CiscoJabberProperties.msi を適用します。
- ステップ 3** 該当する インストーラ プロパティに値を指定します。
- ステップ 4** トランスフォーム ファイルを生成して保存します。

- a) [トランスフォーム (Transform)] > [トランスフォームの生成 (Generate Transform)] を選択します。
- b) トランスフォーム ファイルを保存するファイル システムの場所を選択します。
- c) トランスフォーム ファイルの名前を指定して [保存 (Save)] を選択します。

作成したトランスフォーム ファイルは、*file_name.mst* として保存されます。このトランスフォーム ファイルを適用して、CiscoJabberSetup.msi のプロパティを変更できます。

次のタスク

[インストーラの変換 \(28 ページ\)](#)

インストーラの変換

インストーラをカスタマイズするため、トランスフォーム ファイルを適用します。



- (注) トランスフォーム ファイルを適用すると、CiscoJabberSetup.msi のデジタル署名が変更されます。CiscoJabberSetup.msi を修正したり、名前を変更しようとする、署名が完全に削除されます。

始める前に

[カスタム トランスフォーム ファイルの作成 \(27 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 Microsoft Orca を起動します。

ステップ 2 Microsoft Orca で CiscoJabberSetup.msi を開きます。

- a) [ファイル (File)] > [開く (Open)] を選択します。
- b) ファイル システム上の CiscoJabberSetup.msi の場所を参照します。
- c) CiscoJabberSetup.msi を選択してから、[開く (Open)] を選択します。

Microsoft Orca でインストール パッケージが開きます。インストーラのテーブルのリストが [テーブル (Tables)] ペインに表示されます。

ステップ 3 必須: 1033 (英語) 以外のすべての言語コードを削除します。

制約事項 カスタム インストーラから 1033 (英語) 以外のすべての言語コード削除する必要があります。

Microsoft Orca では、デフォルト (1033) 以外のいずれの言語ファイルもカスタム インストーラで保持されません。カスタム インストーラからすべての言語コードを削除しない場合、言語が英語以外のオペレーティングシステムでインストーラを実行できません。

- a) [表示 (View)] > [要約情報 (Summary Information)] を選択します。
[要約情報の編集 (Edit Summary Information)] ウィンドウが表示されます。
 - b) [言語 (Language)] フィールドを見つけます。
 - c) 1033 以外のすべての言語コードを削除します。
 - d) [OK] を選択します。
- 英語がカスタム インストーラの言語として設定されます。

ステップ 4 トランスフォーム ファイルを適用します。

- a) [トランスフォーム (Transform)] > [トランスフォームの適用 (Apply Transform)] を選択します。
- b) ファイルシステムのトランスフォーム ファイルの場所を参照します。
- c) トランスフォーム ファイルを選択し、[開く (Open)] を選択します。

ステップ 5 [テーブル (Tables)] ペインのテーブルのリストから [プロパティ (Property)] を選択します。
CiscoJabberSetup.msi のプロパティのリストがアプリケーション ウィンドウの右パネルに表示されます。

ステップ 6 必要とするプロパティの値を指定します。

ヒント 値は大文字と小文字を区別します。このマニュアルの値と一致する値であることを確認します。

ヒント CLEAR の値を 1 に設定し、以前のインストールからの既存のブートストラップ ファイルを上書きします。既存のブートストラップ ファイルを上書きしない場合、カスタム インストーラで設定する値は有効ではありません。

ステップ 7 必要のないプロパティを削除します。

設定されていないプロパティを削除するのは重要です。削除しないと、設定されたプロパティが有効になりません。必要ない各プロパティを 1 つずつ削除します。

- a) 削除するプロパティを右クリックします。
- b) [行を削除 (Drop Row)] を選択します。
- c) Microsoft Orca から続行を要求されたら、[OK] を選択します。

ステップ 8 必須: カスタム インストーラで埋め込みストリームを保存できるようにします。

- a) [ツール (Tools)] > [オプション (Options)] を選択します。
- b) [データベース (Database)] タブを選択します。
- c) [名前を付けて保存 (Save As)] の選択時に埋め込みストリームをコピーする (Copy embedded streams during 'Save As')] を選択します。
- d) [適用 (Apply)] を選択し、[OK] を選択します。

ステップ 9 カスタム インストーラを保存します。

- a) [ファイル (File)] > [名前を付けて変換を保存 (Save Transformed As)] を選択します。
- b) ファイル システム上の場所を選択してインストーラを保存します。

- c) インストーラの名前を指定してから、[保存 (Save)] を選択します。
-

インストーラのプロパティ

カスタム インストーラで修正できるプロパティは次のとおりです。

- CLEAR
- PRODUCT_MODE
- AUTHENTICATOR
- CUP_ADDRESS
- TFTP
- CTI
- CCMCIP
- LANGUAGE
- TFTP_FILE_NAME
- FORGOT_PASSWORD_URL
- SSO_ORG_DOMAIN
- LOGIN_RESOURCE
- LOG_DIRECTORY
- CLICK2X
- SERVICES_DOMAIN

これらのプロパティは、インストールの引数に対応し、同じ値が設定されています。

グループ ポリシーを使用した導入

Microsoft Windows Server の Microsoft グループ ポリシー管理コンソール (GPMC) を使用して、グループ ポリシーと一緒に Windows 版 Cisco Jabber をインストールします。



- (注) グループ ポリシーと一緒に Windows 版 Cisco Jabber をインストールするには、Windows 版 Cisco Jabber の展開先となるすべてのコンピュータまたはユーザが同じドメイン内に存在している必要があります。
-

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	言語コードの設定 (31 ページ)	MSI が何らかの形で Orca により変更されている場合のみ、この手順を使用して [言語 (Language)] フィールドを 1033 に設定します。
ステップ 2	グループ ポリシーによるクライアントの展開 (32 ページ)	Cisco Jabber for Windows with Group Policy を導入します。

言語コードの設定

インストール言語の変更は、シスコが提供する MSI ファイルを使用するグループ ポリシーの配置シナリオでは必要ではありません。このような状況において、インストール言語は Windows ユーザ ロケール (形式) から決定されます。MSI が何らかの形で Orca により変更されている場合のみ、この手順を使用して [言語 (Language)] フィールドを 1033 に設定します。

Jabber クライアントがサポートする言語の Locale Identifier (LCID) または Language Identifier (LangID) のリストについては、[言語の LCID \(23 ページ\)](#) を参照してください。

手順

ステップ 1 Microsoft Orca を起動します。

Microsoft Orca は、Microsoft の Web サイトからダウンロード可能な Microsoft Windows SDK for Windows 7 と .NET Framework 4 の一部として入手できます。

ステップ 2 CiscoJabberSetup.msi を開きます。

- a) [ファイル (File)] > [開く (Open)] を選択します。
- b) ファイル システム上の CiscoJabberSetup.msi の場所を参照します。
- c) CiscoJabberSetup.msi を選択してから、[開く (Open)] を選択します。

ステップ 3 [表示 (View)] > [要約情報 (Summary Information)] を選択します。

ステップ 4 [言語 (Language)] フィールドを見つけます。

ステップ 5 [言語 (Languages)] フィールドを 1033 に設定します。

ステップ 6 [OK] を選択します。

ステップ 7 必須: カスタム インストーラで埋め込みストリームを保存できるようにします。

- a) [ツール (Tools)] > [オプション (Options)] を選択します。
- b) [データベース (Database)] タブを選択します。
- c) [名前を付けて保存 (Save As)] の選択時に埋め込みストリームをコピーする (Copy embedded streams during 'Save As')] を選択します。
- d) [適用 (Apply)] を選択し、[OK] を選択します。

ステップ 8 カスタム インストーラを保存します。

- a) [ファイル (File)] > [名前を付けて変換を保存 (Save Transformed As)] を選択します。
- b) ファイル システム上の場所を選択してインストーラを保存します。
- c) インストーラの名前を指定してから、[保存 (Save)] を選択します。

次のタスク

[グループポリシーによるクライアントの展開 \(32 ページ\)](#)

グループポリシーによるクライアントの展開

グループポリシーと Windows 版 Cisco Jabber を展開するには、このタスクの手順を実行します。

始める前に

[言語コードの設定 \(31 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 導入のためのソフトウェア配布ポイントにインストール パッケージをコピーします。

Windows 版 Cisco Jabber を展開する予定のすべてのコンピュータまたはユーザは、配布ポイント上のインストールパッケージにアクセスできる必要があります。

ステップ 2 [スタート (Start)] > [ファイル名を指定して実行 (Run)] を選択し、次のコマンドを入力します。

```
GPMC.msc
```

[グループポリシー管理 (Group Policy Management)] コンソールが開きます。

ステップ 3 新しいグループポリシー オブジェクトを作成します。

- a) 左側のペインの適切なドメインを右クリックします。
- b) [このドメインに GPO を作成してここにリンクする (Create a GPO in this Domain, and Link it here)] を選択します。

[新しい GPO (New GPO)] ウィンドウが開きます。

- c) [名前 (Name)] フィールドにグループポリシー オブジェクトの名前を入力します。
- d) デフォルト値をそのままにするか、[発信元の開始 GPO (Source Starter GPO)] ドロップダウン リストから適切なオプションを選択し、次に [OK] を選択します。

新しいグループポリシーが、ドメインのグループポリシーのリストに表示されます。

ステップ 4 導入の範囲を設定します。

- a) 左側のペインのドメインの下からグループポリシー オブジェクトを選択します。

グループポリシー オブジェクトが右側のペインに表示されます。

- b) [スコープ (Scope)] タブの [セキュリティ フィルタリング (Security Filtering)] セクションで、[追加 (Add)] を選択します。
[ユーザ、コンピュータ、またはグループの選択 (Select User, Computer, or Group)] ウィンドウが開きます。
- c) Windows 版 Cisco Jabber を導入するコンピュータとユーザを指定します。

ステップ 5 インストール パッケージを指定します。

- a) 左側のペインのグループ ポリシー オブジェクトを右クリックして、[編集 (Edit)] を選択します。
[グループ ポリシー管理エディタ (Group Policy Management Editor)] が開きます。
- b) [コンピュータの設定 (Computer Configuration)] を選択して、[ポリシー (Policies)] > [ソフトウェアの設定 (Software Settings)] を選択します。
- c) [ソフトウェアのインストール (Software Installation)] を右クリックして、[新規 (New)] > [パッケージ (Package)] を選択します。
- d) [ファイル名 (File Name)] の横にインストール パッケージの場所を入力します (例 : \\server\software_distribution) 。
重要 インストール パッケージの場所として Uniform Naming Convention (UNC) パスを入力する必要があります。UNC パスを入力しなかった場合は、グループポリシーで Windows 版 Cisco Jabber を展開できません。
- e) インストール パッケージを選択して、[開く (Open)] を選択します。
- f) [ソフトウェアの導入 (Deploy Software)] ダイアログボックスで、[割り当て済み (Assigned)] を選択し、[OK] を選択します。

グループ ポリシーによって、次のコンピュータの起動時にコンピュータごとに Windows 版 Cisco Jabber がインストールされます。

Windows の自動更新の設定

自動更新を有効にするには、HTTP サーバ上のインストール パッケージの URL などの最新バージョンに関する情報を含む XML ファイルを作成します。ユーザがサインインしたとき、コンピュータをスリープ モードから再開したとき、または [ヘルプ (Help)] メニューから手動更新要求を実行したとき、クライアントは XML ファイルを取得します。

XML ファイルの構造

自動更新用の XML ファイルは次のような構造となっています。

```
<JabberUpdate>
  <App name="JabberWin">
    <LatestBuildNum>12345</LatestBuildNum>
    <LatestVersion>11.8.x</LatestVersion>
    <Mandatory>true</Mandatory>
    <Message>
      <![CDATA[<b>This new version of Cisco Jabber lets you do the
```

```

        following:</b><ul><li>Feature 1</li><li>Feature 2</li></ul>For
        more information click <a target="_blank"
href="http://cisco.com/go/jabber">here</a>.<]]>
    </Message>
    <DownloadURL>http://http_server_name/CiscoJabberSetup.msi</DownloadURL>

    </App>
</JabberUpdate>

```

始める前に

- XML ファイルとインストールパッケージをホストするために、HTTP サーバをインストールして設定します。
 - ワークステーションにソフトウェアアップデートをインストールできる権限がユーザにあることを確認します。
- ユーザがワークステーションに対する管理権限を持っていない場合は、Microsoft Windows が更新インストールを停止します。インストールを完了するには、管理者権限でログインする必要があります。

手順

ステップ 1 ご使用の HTTP サーバで更新インストールプログラムをホストします。

ステップ 2 任意のテキスト エディタを使用して更新の XML ファイルを作成します。

ステップ 3 XML で次のように値を指定します。

- name : App 要素の name 属性の値として次の ID を指定します。
 - JabberWin : 更新は Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。
- LatestBuildNum : 更新のビルド番号。
- LatestVersion : 更新のバージョン番号。
- Mandatory : (Windows クライアントのみ) True または False。画面の指示に従って、ユーザがクライアントバージョンをアップグレードする必要があるかどうかを決定します。
- Message : 次の形式の HTML。

```
<![CDATA[your_html]]>
```
- DownloadURL : HTTP サーバ上のインストールパッケージの URL。
- AllowUpdatesViaExpressway — Windows クライアントのみ)。False (デフォルト) または True。Expressway for Mobile and Remote Access 上で社内ネットワークに接続しているとき、Jabber が自動更新を行うか指定します。

更新 XML ファイルがパブリック Web サーバにホストされている場合、このパラメータを false に設定します。そうしないと、Jabber には、更新ファイルが内部サーバにホストされ

ており、Expressway for Mobile and Remote Access を介してアクセスする必要があると通知されます。

ステップ 4 更新の XML ファイルを保存して閉じます。

ステップ 5 HTTP サーバ上で更新 XML ファイルをホストします。

ステップ 6 コンフィギュレーション ファイル内の UpdateUrl パラメータの値として更新 XML ファイルの URL を指定します。

Windows 版 Cisco Jabber のアンインストール

コマンドラインまたは Microsoft Windows のコントロールパネルを使用して Windows 版 Cisco Jabber をアンインストールできます。このマニュアルでは、コマンドラインを使用して Windows 版 Cisco Jabber をアンインストールする方法について説明します。

インストーラの使用

ファイルシステムでインストーラが利用可能な場合は、それを使用して Windows 版 Cisco Jabber を削除します。

手順

ステップ 1 コマンドライン ウィンドウを開きます。

ステップ 2 次のコマンドを入力します。

```
msiexec.exe /x path_to_CiscoJabberSetup.msi
```

次の例を参考にしてください。

```
msiexec.exe /x C:\Windows\Installer\CiscoJabberSetup.msi /quiet
```

ここで、/quiet により、サイレントアンインストールが指定されます。

このコマンドは、コンピュータから Windows 版 Cisco Jabber を削除します。

製品コードの使用

ファイルシステムでインストーラが利用できない場合は、製品コードを使用して Windows 版 Cisco Jabber を削除します。

手順

ステップ 1 製品コードを検索します。

a) Microsoft Windows レジストリ エディタを開きます。

- b) レジストリ キー HKEY_CLASSES_ROOT\Installer\Products を見つけます。
- c) [編集 (Edit)] > [検索 (Find)] を選択します。
- d) [検索 (Find)] ウィンドウの [検索 (Find what)] テキスト ボックスに Cisco Jabber と入力し、[次を検索 (Find Next)] を選択します。
- e) **ProductIcon** キーの値を検索します。

製品コードは、**ProductIcon** キーの値 (たとえば、
C:\Windows\Installer\{product_code}\ARPPRODUCTICON.exe) です。

(注) 製品コードは Windows 版 Cisco Jabber のバージョンごとに異なります。

ステップ 2 コマンドライン ウィンドウを開きます。

ステップ 3 次のコマンドを入力します。

```
msiexec.exe /x product_code
```

次の例を参考にしてください。

```
msiexec.exe /x 45992224-D2DE-49BB-B085-6524845321C7 /quiet
```

ここで、/quiet により、サイレント アンインストールが指定されます。

このコマンドは、コンピュータから Windows 版 Cisco Jabber を削除します。

Mac 版 Cisco Jabber のインストール

Mac 版 Cisco Jabber のインストーラ

クライアントのインストール

クライアントをインストールするには、次のいずれかの方法を使用します。

- ユーザが手動でアプリケーションをインストールできるよう、インストーラを提供します。クライアントは Applications フォルダにインストールされます。クライアントの以前のバージョンを削除する必要があります。
- ユーザに自動アップデートを設定すると、インストーラは告知なしにアプリケーションを更新します。

自動更新では、クライアントはいつも Applications フォルダに追加されます。

- クライアントが別のフォルダにある場合、または Applications フォルダのサブフォルダにある場合は、Applications フォルダにクライアントを実行するためのリンクが作成されます。
- ユーザが以前クライアントの名前を変更している場合は、インストーラはそれに一致するよう新しいクライアントの名前を変更します。

他の OS X インストーラのインストールと同様に、ユーザはシステムのクレデンシャルを入力するよう求められます。

告知なしのインストール：クライアントを告知なしにインストールするには、端末ツールで次の Mac OS X コマンドを使用します。

```
sudo installer -pkg /path_to/Install_Cisco-Jabber-Mac.pkg -target /
```

インストーラ コマンドの詳細は、Mac のインストーラのマニュアル ページを参照してください。

設定 (Configuration)

クライアントへサインインするための設定情報を入力します。次のいずれかを実行します。

- オプションのサーバの情報を含む設定用 URL をユーザに提供します。詳細は、『Mac 版 Cisco Jabber の URL 設定』セクションを参照してください。
- 手動で接続するため、サーバの情報をユーザに提供します。詳細は、『手動接続設定』セクションを参照してください。
- サービス検出を使用します。詳細は、サービス検出セクションを参照してください。

インストーラの手動での実行

インストールプログラムを手動で実行すれば、クライアントの単一のインスタンスをインストールして、[設定 (Preferences)] で接続設定を指定できます。

始める前に

クライアントの古いバージョンをすべて削除します。

手順

-
- ステップ 1** jabber-mac.pkg を起動します。
インストーラにより、インストールプロセスのウィンドウが開きます。
 - ステップ 2** 手順に従ってインストールプロセスを完了します。
インストーラはシステム クレデンシャルの入力を要求します。
 - ステップ 3** 設定 URL を使い、またはクライアントを直接実行して、クライアントを起動します。
ユーザ クレデンシャルを入力します。
-

Mac 版 Cisco Jabber の URL 設定

ユーザが手動でサービス ディスカバリ情報を入力しなくても Cisco Jabber を起動できるようにするには、構成 URL を作成してユーザに配布します。

電子メールで直接、ユーザにリンクを送信するか、Web サイトにリンクを掲載することで、ユーザに構成 URL リンクを提供できます。

URL には次のパラメータを含めて指定できます。

- **ServicesDomain** : 必須。すべての構成 URL に Cisco Jabber でのサービス ディスカバリに必要な IM and Presence サーバのドメインを含める必要があります。
- **ServiceDiscoveryExcludedServices** : 任意。サービス ディスカバリ プロセスから次のサービスを除外できます。
 - **Webex** この値を設定すると、クライアントは次のように動作します。
 - CAS 検索を実行しません。
 - 検索 :
 - `_cisco-uds`
 - `_cuplogin`
 - `_collab-edge`
 - **CUCM** : この値を設定すると、クライアントは次のように動作します。
 - `_cisco-uds` を検索しません。
 - 検索 :
 - `_cuplogin`
 - `_collab-edge`
 - **CUP** : この値を設定すると、クライアントは次のように動作します。
 - `_cuplogin` を検索しません。
 - 検索 :
 - `_cisco-uds`
 - `_collab-edge`

カンマで区切った複数の値を指定して、複数のサービスを除外できます。

3 つのサービスをすべて除外した場合、クライアントはサービス ディスカバリを実行せず、手動で接続設定を入力することをユーザに求めます。

- **ServicesDomainSsoEmailPrompt** : 任意。ユーザのホーム クラスタを決定する際に、ユーザに対して電子メール プロンプトを表示するかどうかを指定します。
 - オン
 - オフ

- **EnablePRTEncryption** : 任意。PRT ファイルの暗号化を指定します。Mac 版 Cisco Jabber で使用します。
 - true
 - false
- **PRTCertificateName** : 任意。証明書の名前を指定します。Mac 版 Cisco Jabber で使用します。
- **InvalidCertificateBehavior** : 任意。無効な証明書に対するクライアントの動作を指定します。
 - **RejectAndNotify** : 警告ダイアログが表示され、クライアントはロードされません。
 - **PromptPerSession** : 警告ダイアログが表示され、ユーザは無効な証明書を受け入れるか、または拒否できます。
- **Telephony_Enabled** : ユーザに対して電話機能を有効にするかどうかを指定します。デフォルトは **true** です。
 - True
 - False
- **DiagnosticsToolEnabled** : クライアントで診断ツールを使用できるようにするかどうかを指定します。デフォルトは **true** です。
 - True
 - False

構成 URL は次の形式で作成します。

```
ciscojabber://provision?ServicesDomain=<domain_for_service_discover>
&VoiceServicesDomain=<domain_for_voice_services>
&ServiceDiscoveryExcludedServices=<services_to_exclude_from_service_discover>
&ServicesDomainSsoEmailPrompt=<ON/OFF>
```



(注) パラメータには大文字と小文字の区別があります。

例

- `ciscojabber://provision?ServicesDomain=cisco.com`
- `ciscojabber://provision?ServicesDomain=cisco.com&VoiceServicesDomain=alphauk.cisco.com`
- `ciscojabber://provision?ServicesDomain=service_domain&VoiceServicesDomain=voiceservice_domain&ServiceDiscoveryExcludedServices=WEBEX`
- `ciscojabber://provision?ServicesDomain=cisco.com&VoiceServicesDomain=alphauk.cisco.com&ServiceDiscoveryExcludedServices=CUCM,CUP`

- `ciscojabber://provision?ServicesDomain=cisco.com`
`&VoiceServicesDomain=alphauk.cisco.com&ServiceDiscoveryExcludedServices=CUCM,CUP`
`&ServicesDomainSsoEmailPrompt=OFF`

Mac の自動更新の設定

自動更新を有効にするには、HTTP サーバ上のインストールパッケージの URL などの最新バージョンに関する情報を含む XML ファイルを作成します。ユーザがサインインしたとき、コンピュータをスリープモードから再開したとき、または [ヘルプ (Help)] メニューから手動更新要求を実行したとき、クライアントは XML ファイルを取得します。

XML ファイルの構造

以下は自動更新の XML ファイルの例です。

```
<JabberUpdate>
<App name="JabberMac">
  <LatestBuildNum>12345</LatestBuildNum>
  <LatestVersion>9.6.1</LatestVersion>
  <Message><![CDATA[<b>This new version of Cisco Jabber lets you do the
following:</b><ul><li>Feature 1</li><li>Feature 2</li>
</ul>For more information click <a target="_blank"
href="http://cisco.com/go/jabber">here</a>.<!--]]>
  </Message>

  <DownloadURL>http://http_server_name/Install_Cisco-Jabber-Mac-1.1.1-12345-MrbCdd.zip</DownloadURL>
</App>
</JabberUpdate>
```

XML ファイルの例 2

以下は自動更新の XML ファイルの例です。これは、Windows 版 Cisco Jabber と Mac 版 Cisco Jabber の両方に該当します。

```
<JabberUpdate>
<App name="JabberMac">
  <LatestBuildNum>12345</LatestBuildNum>
  <LatestVersion>9.6.1</LatestVersion>
  <Message><![CDATA[<b>This new version of Cisco Jabber lets you do the
following:</b><ul><li>Feature 1</li><li>Feature 2</li>
</ul>For more information click <a target=" blank"
href="http://cisco.com/go/jabber">here</a>.<!--]]>
  </Message>

  <DownloadURL>http://http_server_name/Install_Cisco-Jabber-Mac-1.1.1-12345-MrbCdd.zip</DownloadURL>

</App>
<App name="JabberWin">
  <LatestBuildNum>12345</LatestBuildNum>
  <LatestVersion>9.0</LatestVersion>
  <Message><![CDATA[<b>This new version of Cisco Jabber lets you do the
following:</b><ul><li>Feature 1</li><li>Feature 2
</li></ul>For more information click <a target="_blank"
href="http://cisco.com/go/jabber">here</a>.<!--]]>
  </Message>
  <DownloadURL>http://http_server_name/CiscoJabberSetup.msi
  </DownloadURL>
</App>
</JabberUpdate>
```


始める前に

XML ファイルとインストール パッケージをホストするために、HTTP サーバをインストールして設定します。



- (注) DSA 署名が確実に成功するよう、Web サーバが特殊文字をエスケープする設定をしてください。たとえば、Microsoft IIS でのオプションは [2 重スペースを許可する (Allow double spacing)] です。

手順

ステップ 1 ご使用の HTTP サーバで更新インストールプログラムをホストします。

ステップ 2 任意のテキスト エディタを使用して更新の XML ファイルを作成します。

ステップ 3 XML で次のように値を指定します。

- name : App 要素の name 属性の値として次の ID を指定します。
 - JabberWin : 更新は Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。
 - JabberMac : 更新は Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。
- LatestBuildNum : 更新のビルド番号。
- LatestVersion : 更新のバージョン番号。
- Mandatory : True または False。画面の指示に従って、ユーザがクライアントバージョンをアップグレードする必要があるかどうかを決定します。
- Message : 次の形式の HTML。

```
<![CDATA[your_html]]>
```
- DownloadURL : HTTP サーバ上のインストール パッケージの URL。

Mac 版 Cisco Jabber の場合、URL ファイルは次の形式にする必要があります。

```
Install_Cisco-Jabber-Mac-version-size-dsaSignature.zip
```

ステップ 4 更新の XML ファイルを保存して閉じます。

ステップ 5 HTTP サーバ上で更新 XML ファイルをホストします。

ステップ 6 コンフィギュレーション ファイル内の UpdateUrl パラメータの値として更新 XML ファイルの URL を指定します。

Cisco Jabber モバイルクライアントのインストール

手順

-
- ステップ 1** Android 版 Cisco Jabber をインストールするには、モバイルデバイスで Google Play からアプリケーションをダウンロードします。
- ステップ 2** iPhone および iPad 版 Cisco Jabber をインストールするには、モバイルデバイスで App Store からアプリケーションをダウンロードします。
-

iPhone、iPad および Android 版 Cisco Jabber の URL 設定

ユーザが手動でサービスディスカバリ情報を入力しなくても Cisco Jabber を起動できるようにするには、構成 URL を作成してユーザに配布します。

電子メールで直接、ユーザにリンクを送信するか、Web サイトにリンクを掲載することで、ユーザに構成 URL リンクを提供できます。

URL には次のパラメータを含めて指定できます。

- **ServicesDomain** : 必須。すべての構成 URL に Cisco Jabber でのサービスディスカバリに必要な IM and Presence サーバのドメインを含める必要があります。
- **ServiceDiscoveryExcludedServices** : 任意。サービスディスカバリ プロセスから次のサービスを除外できます。
 - **Webex** この値を設定すると、クライアントは次のように動作します。
 - CAS 検索を実行しません。
 - 検索 :
 - `_cisco-uds`
 - `_cuplogin`
 - `_collab-edge`
 - **CUCM** : この値を設定すると、クライアントは次のように動作します。
 - `_cisco-uds` を検索しません。
 - 検索 :
 - `_cuplogin`
 - `_collab-edge`

• CUP：この値を設定すると、クライアントは次のように動作します。

- `_cuplogin` を検索しません。
- 検索：
 - `_cisco-uds`
 - `_collab-edge`

カンマで区切った複数の値を指定して、複数のサービスを除外できます。

3つのサービスをすべて除外した場合、クライアントはサービス ディスカバリを実行せず、手動で接続設定を入力することをユーザに求めます。

- `ServicesDomainSsoEmailPrompt`：任意。ユーザのホーム クラスタを決定する際に、ユーザに対して電子メール プロンプトを表示するかどうかを指定します。
 - オン
 - オフ
- `InvalidCertificateBehavior`：任意。無効な証明書に対するクライアントの動作を指定します。
 - `RejectAndNotify`：警告ダイアログが表示され、クライアントはロードされません。
 - `PromptPerSession`：警告ダイアログが表示され、ユーザは無効な証明書を受け入れるか、または拒否できます。
- `PRTCertificateUrl`：信頼できるルート認証局の証明書ストアにある公開キーを含む証明書の名前を指定します。モバイル クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。
- `Telephony_Enabled`：ユーザに対して電話機能を有効にするかどうかを指定します。デフォルトは `true` です。
 - `True`
 - `False`
- `ForceLaunchBrowser`：ユーザに外部ブラウザの使用を強制する場合に使用します。モバイル クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。
 - `True`
 - `False`



(注) `ForceLaunchBrowser` は、クライアント証明書の展開および Android OS 5.0 よりも前のデバイスに使用されます。

構成 URL は次の形式で作成します。

```
ciscojabber://provision?ServicesDomain=<domain_for_service_discover>
&VoiceServicesDomain=<domain_for_voice_services>
&ServiceDiscoveryExcludedServices=<services_to_exclude_from_service_discover>
&ServicesDomainSsoEmailPrompt=<ON/OFF>
```



(注) パラメータには大文字と小文字の区別があります。

例

- `ciscojabber://provision?ServicesDomain=cisco.com`
- `ciscojabber://provision?ServicesDomain=cisco.com
&VoiceServicesDomain=alphauk.cisco.com`
- `ciscojabber://provision?ServicesDomain=service_domain
&VoiceServicesDomain=voiceservice_domain&ServiceDiscoveryExcludedServices=WEBEX`
- `ciscojabber://provision?ServicesDomain=cisco.com
&VoiceServicesDomain=alphauk.cisco.com&ServiceDiscoveryExcludedServices=CUCM,CUP`
- `ciscojabber://provision?ServicesDomain=cisco.com
&VoiceServicesDomain=alphauk.cisco.com&ServiceDiscoveryExcludedServices=CUCM,CUP
&ServicesDomainSsoEmailPrompt=OFF`

企業モビリティ管理によるモバイルの設定

AppConfig スタンダードを使用した Enterprise Mobility Management (EMM)

企業モビリティ管理 (EMM) を使用する前に、以下を確認してください。

- EMM ベンダーが Android for Work または Apple Managed App Configuration をサポートしている。
- その Android デバイスには、5.0 以降の OS が搭載されています。

Enterprise Mobility Management (EMM) を使用して Cisco Jabber を設定し、Android 版 Cisco Jabber または iPhone、iPad 版 Cisco Jabber のユーザによる起動を許可します。EMM の設定の詳細については、EMM プロバイダーから提供される管理者用の説明書を参照してください。

Jabber をマネージドデバイスでのみ実行する場合、証明書ベースの認証を展開し、EMM を使用してクライアント証明書を登録できます。

iPhone および iPad 版 Cisco Jabber は、Microsoft Exchange サーバからインポートされる、ローカルの連絡先のデフォルトのダイアラとして設定することができます。**Exchange ActiveSync** を使用してプロファイルを設定し、MDM 設定ファイルの [デフォルトの音声通話アプリ] フィールドに `com.cisco.jabberIM` 値を入力します。

EMM を使用するときは、EMM アプリケーションで `AllowUrlProvisioning` パラメータを `False` に設定し、URL 設定を無効にします。パラメータの設定の詳細は、『*AllowUrlProvisioning Parameter*』を参照してください。

アプリラッピングによる EMM

EMM に対するもう 1 つのアプローチは、アプリラッピングです。ベンダーのアプリラッピングツールを使用して Jabber をカプセル化し、ポリシーを適用して Jabber でユーザができることを制限します。次に、カプセル化された Jabber をユーザに配布します。新しいバージョンの Jabber にアップグレードする場合は、常にカプセル化を繰り返す必要があります。

Cisco Jabber でのアプリのラッピングを使用するには、双方向の契約に署名する必要があります。jabber-mobile-mam@cisco.com の詳細については、弊社にお問い合わせください。

SDK 統合による EMM

リリース 12.8 では、EMM の別のアプローチとして Microsoft Intune および BlackBerry Dynamics のサポートが追加されました。Microsoft および BlackBerry Sdk を使用して、アプリストアと Google Play ストアから新しいクライアントを作成しました。

- Intune 版 Jabber
- Blackberry 版 Jabber

これらのソリューションを使用して、ポータルに管理ポリシーを作成します。ユーザが新しいクライアントを使用してログインすると、クライアントはポータルと同期してポリシーを適用します。

Intune 版 Jabber を使用した EMM

導入で Intune 版 Jabber クライアントを使用する場合、管理者は Microsoft Azure で管理ポリシーを設定します。ユーザは、アプリストアまたは Google Play ストアから新しいクライアントをダウンロードします。ユーザが新しいクライアントを実行すると、管理者が作成したポリシーを使用して同期が行われます。



注意

Intune 版 Jabber は、iOS プラットフォームで Apple Push Notification (APN) をサポートしていません。Jabber をバックグラウンドに配置する場合、iOS デバイスがチャットメッセージやコールを受信しないことがあります。



- (注) Android デバイスの場合、ユーザは最初に Intune Company Portal をインストールします。次に、ポータルを使用してクライアントを実行します。

Intune 版 Jabber を設定するための一般的なプロセスは次のとおりです。

1. 新しい Azure AD テナントを作成します。
2. 新しい AD ユーザを作成するか、オンプレミスの AD ユーザを同期します。
3. Office 365 グループまたはセキュリティグループを作成し、ユーザを追加します。
4. Intune 版 Jabber クライアントを Microsoft Intune に追加します。

Blackberry 版 Jabber を使用した EMM

5. Microsoft Intune でポリシーを作成して展開します。
6. ユーザはクライアントにログインして、同期してポリシーを受信します。

この手順の詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。

次の表は、Cisco Jabber 用のアプリ保護ポリシーでサポートされている Microsoft Intune の制限を示しています。

制約事項	Android	iPhone および iPad
他のアプリにデータを送信する	はい	はい
組織のデータのコピーを保存する	はい	はい
他のアプリへのカット、コピー、貼り付け	はい	はい
スクリーン キャプチャ	対応	該当なし
最大 PIN 試行回数	はい	はい
オフラインの猶予期間	はい	はい
最低要件のアプリ バージョン	はい	はい
脱獄またはルートされるデバイスで使用する	はい	はい
最低要件のデバイスの OS バージョン	はい	はい
最低要件のパッチ バージョン	対応	該当なし
職場 (または学校) のアクセス用アカウント資格情報	はい	はい
アクセス要件を再チェックする	はい	はい

Blackberry 版 Jabber を使用した EMM

導入で BlackBerry 版 Jabber クライアントを使用する場合、管理者は BlackBerry ユニファイド エンドポイントの管理 (UEM) で管理ポリシーを設定します。ユーザは、アプリストアまたは Google Play ストアから新しいクライアントをダウンロードします。Blackberry 版 Jabber は BlackBerry に対応していますが、BlackBerry Marketplace ではまだ入手可能ではありません。



重要 クライアントが BlackBerry を認証中であるため、貴社へのアクセスを許可する必要があります。アクセスを受信するには、お問合せ先 (jabber-mobile-mam@cisco.com) にアクセスして、お客様の BlackBerry UEM サーバからの組織 ID をご提供ください。

新しいクライアントは BlackBerry Dynamics SDK を統合しており、ブラック UEM からポリシーを直接取得することができます。クライアントは、接続とストレージに BlackBerry Dynamics をバイパスします。FIPS 設定は、BlackBerry Dynamics SDK ではサポートされていません。

チャット、音声、およびビデオトラフィックは、BlackBerry インフラストラクチャをバイパスすることになります。クライアントがオンプレミスの場合、すべてのトラフィックに対して Cisco Expressway でのモバイル & Remote Access が必要です。



注意

BlackBerry 版 Jabber は iOS プラットフォームで Apple Push Notification (APN) をサポートしていません。Jabber をバックグラウンドに配置する場合、iOS デバイスがチャットメッセージやコールを受信しないことがあります。



(注)

Android での BlackBerry 版 Jabber には Android 6.0 以降が必要です。

iOS での BlackBerry 向け Jabber には iOS 11.0 またはそれ以降が必要です。

BlackBerry Dynamics の場合、管理者は BlackBerry 版 Jabber クライアントの使用を制御するポリシーを設定します。

BlackBerry 版 Jabber を設定するための一般的なプロセスは、次のとおりです。

1. UEM にサーバを作成します。
2. BlackBerry 版 Jabber クライアントを BlackBerry Dynamics に追加します。
3. BlackBerry Dynamics でユーザを作成またはインポートします。



(注)

Android ユーザの場合、必要に応じて、BlackBerry Dynamics でアクセスキーを生成できます。

4. UEM にポリシーを作成して導入します。BlackBerry 版 Jabber アプリ設定でのこれらの設定の動作に注意してください。
 - オプションの DLP ポリシーを有効にした場合、BlackBerry は次のものを必要とします。
 - 電子メールの送信に BlackBerry Works を使用します。
 - iOS デバイスの SSO 認証には BlackBerry Access を使用してください。Expressway とユニファイドコミュニケーションマネージャで、iOS 版ネイティブブラウザの使用を有効にします。次に、**ciscojabber** スキームを BlackBerry UEM で BlackBerry アクセスポリシーに追加します。
 - このリストには、BlackBerry 版 Jabber 導入用のアプリ設定によって設定するのに便利な Jabber パラメータが表示されています。これらのパラメータの詳細については、導入ガイドの *Android*、*iPhone*、*iPad* 版 *Cisco Jabber* の URL 設定を参照してください。

フィールド	iOS 対応	Android 対応
Webex Meetings の相互起動の無効化 ↓	はい	はい
サービス ドメイン	はい	はい
音声サービス ドメイン	はい	はい
サービス検出から除外されたサービス	はい	はい
サービス ドメイン SSO 電子メール プロンプト	はい	はい
無効な証明書の動作	はい	はい
テレフォニー有効	はい	はい
URL プロビジョニングの許可	はい	はい
IP モード	はい	はい

¹ Webex Meetings の相互起動を有効にすると、Dynamics 以外のアプリケーションを許可しない BlackBerry Dynamics コンテナで例外として実行できます。

5. ユーザはクライアントにログインします。

この手順の詳細については、BlackBerry のマニュアルを参照してください。

次の表は、Cisco Jabber 用のアプリ保護ポリシーでサポートされている BlackBerry の制限を示しています。

グループ (Group)	機能	Android	iPhone および iPad
ITポリシー	ネットワーク接続なしでデバイスをワイプします	はい	はい
アクティベーション	許可されたバージョン	はい	はい

グループ (Group)	機能	Android	iPhone および iPad
BlackBerry Dynamics	パスワード (Password)	はい	はい
	データ漏洩の防止: BlackBerry Dynamics アプリから BlackBerry Dynamics 以外の アプリにデータをコピーすることはできません	はい	はい
	データ漏洩の防止: BlackBerry Dynamics 以外のアプリから BlackBerry Dynamics アプリにデータをコピーすることはできません	はい	はい
	データ漏洩の防止: Android および Windows 10 デバイスでの画面キャプチャを許可しません	対応	該当なし
	データ漏洩の防止: iOS デバイスで画面の録音と共有を許可しません	該当なし	可
	データ漏洩の防止: iOS デバイスのカスタムキーボードを許可しません	該当なし	可
Enterprise Management Agent のプロファイル	パーソナルアプリコレクションを許可します	はい	はい
コンプライアンス プロファイル	ルート OS または失敗した構成証明	はい	はい
	制限付き OS バージョンがインストールされています	はい	はい
	必要なセキュリティパッチレベルがインストールされていません	対応	該当なし

BlackBerry 版 Jabber の IdP 接続

Android、iPhone および iPad 版 Jabber 導入では、クライアントが DMZ で Id プロバイダー (IdP) プロキシに接続します。次に、プロキシは、内部ファイアウォールの背後にある IdP サーバに要求を渡します。

BlackBerry 版 Jabber では、代替パスを使用できます。BlackBerry UEM の DLP ポリシーを有効にすると、iOS デバイスのクライアントは、安全に IdP サーバに直接トンネルできます。このセットアップを使用するには、導入を次のように設定します。

- Expressway とユニファイド CM で、iOS 版ネイティブブラウザの使用を有効にします。
- **Ciscojabber** スキームを blackberry Uem の blackberry アクセスポリシーに追加します。

Android OS 上の BlackBerry 版 Jabber は、SSO のために常に IdP プロキシに接続します。

導入環境に、iOS で動作しているデバイスのみが含まれている場合、DMZ では IdP プロキシは必要ありません。ただし、Android OS 上で動作するデバイスが導入環境に含まれている場合は、IdP プロキシが必要です。

iOS のアプリ転送セキュリティ

iOS には、アプリ転送セキュリティ (ATS) 機能が含まれています。ATS では、Jabber for BlackBerry および Jabber for Intune により、信頼できる証明書と暗号化を使用して TLS を介したセキュアなネットワーク接続を実現する必要があります。ATS は、X.509 デジタル証明書を持たないサーバへの接続をブロックします。証明書は次のチェックを通過する必要があります。

- 変更が加えられていないデジタル署名
- 有効な有効期限日
- サーバの DNS 名と一致する名前
- CA からの信頼できるアンカー証明書への有効な証明書のチェーン



(注) iOS の一部である信頼されたアンカー証明書の詳細については、iOS で使用可能な信頼されたルート証明書のリスト (<https://support.apple.com/en-us/HT204132>) を参照してください。システム管理者またはユーザは、同じ要件を満たしている限り、独自の信頼できるアンカー証明書をインストールできます。

ATS の詳細については、セキュアでないネットワーク接続の防止 (https://developer.apple.com/documentation/security/preventing_insecure_network_connections) を参照してください。

MDM 導入用の便利なパラメータ

EMM ベンダーは、アプリケーションの設定で様々な型の値を設定できますが、Cisco Jabber は String 型の値しか読み取りできません。EMM では、次のパラメータが便利な場合があります。これらのパラメータの詳細については、*Android*、*iPhone*、*iPad* 版 *Cisco Jabber* の URL 設定を参照してください。

- ServicesDomain
- VoiceServicesDomain
- ServiceDiscoveryExcludedServices
- ServicesDomainSsoEmailPrompt
- EnablePRTEncryption
- PRTCertificateURL
- PRTCertificateName
- InvalidCertificateBehavior

- Telephony_Enabled
- ForceLaunchBrowser
- FIPS_MODE
- CC_MODE
- LastLoadedUserProfile
- AllowUrlProvisioning

EMM を使用するときは、EMM アプリケーションで AllowUrlProvisioning パラメータを **False** に設定し、URL 設定を無効にします。パラメータの設定の詳細は、『AllowUrlProvisioning Parameter』を参照してください。

- IP_Mode
- AllowTeamsUseEmbeddedSafari: iPhone および iPad 版 Cisco Jabber のみ
- AutoLoginUserName
- AutoLoginUserPassword

以降のセクションでは、MDM の導入でこれらのパラメータの一部を使用する方法について説明します。

AllowUrlProvisioning パラメータ

URL による設定から EMM に移行する場合、このパラメータを使用します。

このパラメータには次の値が適合します。

- true (デフォルト) : ブートストラップ設定は URL による設定により行われます。
- false : ブートストラップ設定は URL による設定では行われません。

例 : `<AllowURLProvisioning>false</AllowURLProvisioning>`

AutoLoginUserName

iPhone および iPad 版 Cisco Jabber に適用されます。

EMM では、モバイルデバイス上のユーザ名を定義します。このパラメータは、AutoLoginUserPassword パラメータおよび ServicesDomain パラメータとともに使用する必要があります。これらのパラメータがまとめられているので、ユーザのサインイン情報をすでに入力している場合は、Jabber アプリをインストールすることができます。

AutoLoginUserPassword

iPhone および iPad 版 Cisco Jabber に適用されます。

EMM では、モバイルデバイスのパスワードを定義します。このパラメータは、AutoLoginUserName パラメータおよび ServicesDomain パラメータとともに使用する必要があります。これらのパラメータがまとめられているので、ユーザのサインイン情報をすでに入力している場合は、Jabber アプリをインストールすることができます。

CC_MODE パラメータ

CC_MODE パラメータ

EMM を使用して Cisco Jabber モバイルクライアントの コモンクライテリア モードを有効または無効にするには、このパラメータを使用します。

- *true*: Cisco Jabber を共通基準モードで実行します。
- *false* (デフォルト): Cisco Jabber は共通基準モードで実行されません。

例:< CC_MODE >*true*</CC_MODE >



(注) CC_MODE を有効にするには、RSA キーサイズが少なくとも 2048 ビットである必要があります。共通基準モードで Jabber が実行されるように設定する方法の詳細については、『Cisco Jabber 12.5 のオンプレミス導入ガイド』に *Cisco Jabber* アプリケーションを導入する方法を参照してください。

FIPS_MODE パラメータ

EMM を使用して Cisco Jabber モバイルクライアントの FIPS モードを有効または無効にするには、このパラメータを使用します。

- *true*: Cisco Jabber を FIPS モードで実行します。
- *false*: Cisco Jabber を FIPS モードで実行できません。

例:<FIPS_MODE> *false* </FIPS_MODE>

LastLoadedUserProfile

iPhone、iPad および Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

EMM では、ユーザーがモバイルデバイスにログオンするためにパスワードを入力するだけで済むように、デバイスのユーザー名を定義します。

<LastLoadedUserProfile>username@example.com<LastLoadedUserProfile>

VDI 版 Jabber Softphone のインストール

手順

ステップ 1 Jabber の展開のワークフローを実行します。

ステップ 2 Jabber ソフトフォンの VDI をインストールするには、インストールする [クライアント](#) 用の VDI 版 Cisco Jabber Softphone の展開およびインストールガイドに記載されている手順に従ってください。